

## 陸上競技のルール解説

### ◇陸上競技のルール

陸上競技では、すべての選手が同じ条件で記録を競うことができるように、ルールが細かく定められています。ルールブックは、英語版は国際陸連（IAAF）のホームページ、日本語版は日本陸連のホームページからそれぞれダウンロードできます。

<http://www.iaaf.org/mm/Document/imported/42192.pdf> （英語版）

<http://www.rikuren.or.jp/athlete/rule/> （日本語版）

また簡単な解説は、日本選手権のプログラムやサイトに掲載してあります。

[http://www.rikuren.or.jp/taikai/531/point\\_of\\_view.html](http://www.rikuren.or.jp/taikai/531/point_of_view.html)

陸上競技ルールの運用は、IAAF と日本とで若干の違いがあります。以下、オリンピックで適用されるルールなどを解説します。

### ◇日本と世界で異なるトラックのマーク

トラックには、スタートやフィニッシュ用のラインだけでなく、ハードルを置く場所やリレーのゾーンなどを示すための様々なマークがペイントされています。日本と世界とではマークが違います。特にリレーのテークオーバーゾーンは、日本は緑の三角ですが、世界はカギ形です。見間違えないようにご注意ください。

### ◇審判はほとんど地元の人たち

陸上競技の国際大会では、審判員のほとんどは、ホスト国の陸上連盟が選抜した地元の関係者です。

競技ルールに則って正しく運営が行われているかを監督するために IAAF から役員が派遣されています。競技全般に関しては責任者として「Technical Delegate（技術代表）」、その元に各種目に立ち会う役員として「ITO（国際技術委員）」がいます。北京オリンピックには日本から派遣された役員はいません。

### ◇トラックとフィールドでの現場での抗議（規則 146 条-4）

トラック種目でフライングで失格となったとき、不正出発発見装置を使っていない大会では、口頭でのアピールをすることで、審判長の判断によっては、裁定留保の状態競技することが認められることがあります。しかし北京オリンピックでは、不正出発発見装置を使用していますので、フライングの判定は覆ることはありません。フィールドでは、ファール判定に納得がいかないとき、その場ですぐに、審判長か ITO にアピールすることで、その記録を計測し保全してもらうことができます。競技終了後、抗議が認められた場合にはこの記録は有効となり、認められなかったときは記録はなかったものとみなされます。

### ◇予選の組み分け（規則 166 条-2）

予選の組み分けは、ベストタイムや持ちタイムに関係なく抽選で決定されます。ただし好記録をもっているトップレベルの選手（チーム）が決勝に進めるよう配慮するよう推奨されています。例えば、世界記録保持者と今季

世界最高記録保持者が抽選の結果、同じ組になったときは、IAAF の競技部門総責任者“技術代表”の判断で別の組に移すことになります。

予選や準決勝では、同じ国の選手が別の組となるように組み合わせがおこなわれます。

#### ◇予選後の組み分けのルール（規則 166 条-3）

400m までのトラック種目とリレーで、予選を終えた次ラウンドの組み分けの決め方は“順位優先”の考え方です。「4組3着+4」のレースのときは、各組1着の選手の記録順でA、B、C、Dと序列が決まり、2着の記録順にE、F、G、H、3着でもI、J、K、Lそしてプラスの4名の記録でM、N、O、Pと序列が決めます。そのうえで次ラウンドである準決勝の2つの組のレベルが均等になるようにつぎのパターンで組み分けされます。

ひとつの組           A D E H I L M P

もうひとつの組    B C F G J K N O

#### ◇シードレーンの変更（規則 166 条-4）

レーンの決め方にもルールがあります。8レーンのトラックでは、上位4人（チーム）は中央4つのレーン（第3~6レーン）、それに続く中位の2人（チーム）は外側の2レーン（第7~8レーン）、下位の2人（チーム）は内側の2レーン（第1~2レーン）に割り振られそれぞれ抽選によりレーンが決まります。

先の組み分け解説の2つの組を例にとると、3~6レーンにはいれるのは、ADEHとBCFG、7、8レーンにはI、LとJ、K、1,2レーンにはM、PとN、Oとなります。

昨年までは、3~6レーンが上位グループ、それ以外のレーンが下位グループと定められていましたが、内側と外側とではカーブに有利不利があるため中央、外側、内側の3グループに分けられることになりました。

#### ◇トラック内側に水濼がある3000m障害

3000mを走るうちに障害物を28回、水濼を7回越えなくてはなりません。スタート後、フィニッシュラインを初めて通過してから各周に5個の障害物があり、その4番目が水濼であることがルールです。

日本の競技場では、水濼はトラックの外側に設けられていますが、北京をはじめ世界の主流は内側です。内側が水濼のトラックでは、スタートはバックストレートにあります。

スタート後、フィニッシュラインを通過するまでの200数十メートルは水濼も移動障害も越えることなく走ります。フィニッシュライン通過後に最初の障害を超えることになります。2箇所の移動式障害物は、選手が1周目を通過後に審判員によって設置されます。

#### ◇4×400mリレーバトン渡しの注意（規則 170 条-9）

4×400mリレーの第3、第4走者は審判の指示に従い、前走者が200mのスタート地点を通過した順序で、内側より並び待機します。その後、この順序を変えるとチームは失格になります。

さらにテークオーバーゾーンの内側より走り出さなくてはなりません。このときラインの線は踏んでもかまいません。過去にゾーンを示すラインの外に足が出て日本チームが失格となったことがありました。

#### ◇リレー編成の決め方（規則 170 条-17）

リレーのメンバー決定は、世界では、日本のルールより柔軟です。

予選と決勝の 2 ラウンドの場合、予選では、リレーにエントリーされているかどうかはまったく関係なく、どの種目であっても大会にエントリーされてさえいれば誰でもリレーを走ることができます。次以降のラウンドでは、さらに 2 名まで変更が可能です。

#### ◇棄権は原則禁止（規則 142 条、170 条-18）

オリンピックでは、選手が実際に出場するかを書面で最終確認します。万が一、この書類提出後に理由なく棄権すると、大会期間中、その後におこなわれるどの種目にも参加することはできません。同様に、予選で次ラウンドへの進出する権利を得たのに棄権することもできません。ただし大会組織委員会が手配した医事担当者の診断書があった場合は、この限りではありません。

またリレーのオーダー用紙提出後のウォームアップ中に怪我などのために走ることができなくなった場合、組織委員会の医事担当の診断書があれば、選手変更は可能です。

#### ◇競歩の一発失格

北京オリンピックの競歩では、IAAF から派遣された主任を含む 9 名の国際競歩審判員が判定を担当します。異なる審判員から 3 枚以上の赤カードを出された場合、失格となりますが、残り 100m からフィニッシュまでの間で歩型違反が明らかな時、主任はこれまでの赤カードの枚数に関係なくその選手を失格にすることができます。

#### ◇フィールド種目の試技順（規則 180 条-5）

走幅跳、三段跳、投てき種目の試技順番は、8 名に人数が絞られる 4 回目以降、記録が低い選手から高い順へと変更になりますが、6 回目でもさらに変更になるようルールに定められています。

#### ◇高さを競う種目の優勝決定戦の高さ変更（181 条-8）

このルールは今年から国内でも適用されていますが、優勝者を決めるには「同成績の選手全員が“成功した”つぎの高さ」で、もう 1 回試技をおこない、優勝者が決定するまでバーを上げ下げします。昨年までは、「試技する権利を失った最も低い高さ」でした。

#### ◇フィールド種目の制限時間（規則 180 条-17）

フィールド種目では、定められた時間内に試技をはじめないとファールとなります。制限時間は種目や状況によって異なりますので事前にルールブックでご確認ください。

選手が準備できてからではなく、前の選手の計測などが終わり審判の準備ができたときから時間はカウントされます。この時間は、競技場所に置かれた時計でカウントダウンされています。15 秒前になると審判により黄旗が上げられ、時間になると赤旗となります。